

～まちが人を育て、人がまちをつくる～

逗子市議会議員

さぎさか ゆうじ 活動報告 vol. 3

～無所属で活動中～



■さぎさか ゆうじ(句坂祐二) プロフィール■

1970年2月14日生まれ A型 41歳 逗子市沼間1-8-2

沼間小学校卒業・逗子中学校卒業・私立横浜商工高等学校卒業(有)句坂量店入社
07年逗子市商工会青年部部長・08,09年沼間小PTA会長、08年逗子市PTA連絡協議会会長・神奈川県PTA協議会常任理事・10年(社)逗子葉山青年会議所理事長
家族構成: 妻と長女(中学1年)次女(小学1年)長男(保育園年中)

2010年3月28日に行われた、市議会議員選挙にて初当選 議会報編集委員会委員長
現在、教育民生常任委員会委員、都市計画審議会委員 所属会派 市政クラブ

平成23年 第2回定例会

平成23年第2回定例会が、6月9日～23日に開催されました。今回の議会では、補正予算、人事案件、陳情等が審議されました。補正予算では、高額

な第1運動公園の再整備事業が可決されました。この事業は本年、第1回定例会の当初予算に含まれていましたが、整備後に掛かる年間約6,000万円のランニングコストと、公共施設の再配置の見通しが曖昧であることを理由に私は修正案に賛成としました(修正案は可決)。その後、ランニングコストの圧縮と公共施設の再配置計画の明示、さらに防災機能の強化策を提示した上で再提案されることを市長に求めてきました。その結果、今回の提案では、年間ランニングコストをこれまでの約半分(約3,100万円)に減額したことで、公共施設の再配置計画が市長から明確に示されました。更に、防災機能の強化についても実施計画の段階で反映していくとの回答を得ることができたため、本案件に賛成致しました。陳情に関しては、昨年夏に問題になりました、逗子海岸の風紀に関する案件が2つありました。また、開発関係では、昨年の第2回、4回定例会にて全会一致で採択された、「沼間4丁目の墓地建設計画に反対する陳情」が新たな局面も発生したことで、陳情が提出されました。詳しくは次号でお伝え致します。

東日本大震災 被災地支援は長期的な支援が必要 がんばろう日本!

3月11日に発生した東日本大震災から4か月半経った今も、多くの方が避難生活を送っています。被災地の復興には長期的な支援が必要だと考えます。私も4月に宮城県石巻市、岩手県陸前高田市に行って参りましたが、町はまだ瓦礫の山、そして避難所では過酷な生活を送っています。7月12日に陸前高田市竹駒町に行きました。今回は、前回炊き出しに行った竹駒コミュニティーセンターの避難所の方々が竹駒小学校内の仮設住宅に移ったので、そちらで支援活動を行いました。仮設住宅



竹駒小学校の校舎前で飾り付け

では、約300の方が暮らしています。私が所属している逗子葉山青年会議所の仲間と平塚青年会議所の協力で行った七夕まつりの飾りを現地に持っていき、飾り付けをしました。当日は「みんなでがんばろう逗子プロジェクト」、宅建協会が合同で、長椅子150脚作成、これは仮設で暮らす人たちのコミュニケーションを図ってもらおうとの考え、



手作りイスに座っておしゃべり

夜には七夕飾りを眺めながら、バーベキューで楽しいひとときを過ごして頂きました。現地の方々とふれあいで私自身が勇気づけられました。私たちは日が経つにつれて被災地支援に対する意識が薄れているように思います。支援金等の支援がまだまだ必要です。これからも皆様のご協力をお願い致します。

～学用品等の寄付についてのご報告～

これまで皆様から預かりました学用品等は竹駒小学校及び避難所等に無事届けましたことをご報告致します。たくさんのご寄付ありがとうございました。

7月5日～7日で、先進都市行政視察に行つて参りました。1日目は、京都市教育委員会「小中一貫校事業（小中一貫教育）」で京都市立京都御池中学校に伺いました。京都市教育委員会は、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」にて全国最多の実績を持ち、その先進的な取り組みが注目されています。教育委員会では、早くから「コミュニティ・スクール」を積極的に導入し、かつ「小中一貫校」事業を採用しています。小中一貫教育の狙いは、中学校進学時に、学校生活の変化に対応できない「中一ギャップ」への対応や、義務教育課程を9年間で捉え、計画的な一貫教育を目指すというものです。小中一貫教育の特色としては、小中連携の「京都市学習支援プログラム」、小学校における「ジョイントプログラム」、中学校における「学習確認プログラム」という反復学習システムを小中連携で行っています。「ジョイントプログラム」は、小学校5、6年時に2回ずつ実施され、



6年生は中学校に通います

国語、算数などのテスト形式を含む形で反復学習し、5回目は小学校6年間の総復習として、中学校1年の4月時に実施される。これは、小学校高学年から中学校のスタイルを取り入れた学習に慣れるという、小中の学びの橋渡しと、個々の理解度を中学校入学時に再確認できるという役割を果たしている。「学習確認プログラム」は、中学校で計7回実施され、国語、社会、数学、理科、英語の5教科について行われる確認テストに向け、出題範囲を計画的に総復習し、達成状況を定期的に確認するよう指導することで、自学自習の習慣化に効果を発揮しています。また、「読解科」という専科を年間35時間設定していることが注目されています。この専科は、校区にある御所南小学校、高倉小学校にも設置されており、「読解力・記述力」を様々なテキストを用いて、言語活動により高め、言語能力を育成する新教科であります。このような取り組みで、義務教育段階で身につけるべき基礎的・基本的な学習を確実に定着させています。返子市では現在、小中連携を推進していますが、取り入れられる部分も多くあると考えます。2日目は滋賀県近江八幡市で、「療育事業について」子ども療育センター（児童デイサービス）ひかりの子を視察いたしました。この事業は障害者自立支援法に基づき、療育の場を通して子どもの成長を促し、保護者の支援を目的として



います。このセンターでは、児童の療育を行う場だけではなく、保険（健診）、障がい児保育・教育も含んだ地域療育システムの中に位置付け、地域に働きかける事業として取り組んでいます。療育内容は、通園事業として、週1～3回、ひかりの子に通い、集団での遊びを中心とした療育を行います。保護者の方も子どもたちの遊びに参加して、子どもたちへの接し方を学びます。相談事業としては、保育園、幼稚園に通うようになった子どもたちには、個別療育相談を行っています。また、児童の発達に応じて目標を定め、プログラムを作成し、達成に向けて働きかけます。返子市においては、市の中心部での療育・教育の総合センター整備の予定があります。今後の進める上で大いに参考になりました。3日目は、「市民協働事業について」滋賀県大津市に伺いました。大津市の市民協働事業は、平井市長がモデルとする、小学校区単位の自治会連合会を核として展開しています。また、『大津市「結の湖都」協働のまちづくり推進条例』を制定され、積極的に市民協働のまちづくりに取り組んでいます。返子市においても、社会参加・市民活動ポイント「Zen」や協働事業提案制度の導入等、また小学校区を単位とした地域組織を設立し、地域の自治権を拡大して地域の多面的な課題に自発的に取り組むとしています。様々な政策が市民協働において、地域で支え合い、共に生きるまちとして、「地域コミュニティの再生」に繋がればと考えます。

皆様の声を聞かせて下さい。
市政に対するご意見、ご要望をお待ちしています。

	御名前
	御住所
	連絡先